

人文研紀要

第101号～第103号（2022年）

◆第101号－2022年(2022年9月発行 A5版380頁)

12世紀末のフォンテーヌ・レ・ブランシュ修道院の歴史叙述 －共同体の過去の再構成と財産の保護－	北館 佳史
カズオ・イシグロ『充たされざる者』 －語りの歪みの考察（1）－	安藤 和弘
「ドラマ性」の記録 －ジャン＝クロード・ピエットの擬演技指導－	新田 孝行
『国事詩集』第1巻「政治」部門（1）	里麻 静夫
日本小説の英訳本における翻訳者の文体的特徴 －東野圭吾作品を例に－	大羽 良
佐賀県東名遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定研究 －縄紋時代早期後半について－	小林 謙一
考古学的景観とその保全	中澤 寛将
存在一性と縁起 －井筒俊彦における存在論の一視点－	小嶋 洋介
『眺めのいい部屋』における導き手の人物の役割	板谷 洋一郎
領事の手紙を読む －『火山の下』の一考察（1）－	野呂 正
母への鎮魂歌としての A. S. バイアット著『シュガー』	船水 直子
認知機能障害を有する患者における“疎通性” －高次脳機能障害および認知症を対象とした使用状況に関する文献的検討－	越智 隆太 緑川 晶
ジグソー法を活用してテキストを読む －ドイツ語初級クラスでの授業実践－	西出 佳詩子
トライチュケ対グレーツ －ベルリン反ユダヤ主義論争 2－	平山 令二

◆第102号—2022年(2022年9月発行 A5版465頁)

メルヴィルの『レッドバーン』と「野蛮なアイルランド人」 という句をめぐって(1)	福士 久夫
トランプ時代と星条旗 —アメリカ市民宗教シンボルの意味構築—	山城 雅江
中華人民共和国江西省における方言番組をめぐる政策について	小田 格
日本語間接関与構文の叙法性について	施 葉 飛
中国当代の反ユートピア文学における「狂人」という人物形象	朱 力
伝統文化における「漢詩」の美 —茶掛の禅語から考える—	彭 浩
清末民初における文体と写真的感性	山本 明
Duolingo for Schools を活用した効率的な学習について	大浜 陽子
ソシュールの伝説・神話研究と推論的範例 <small>パラダイム</small>	金澤 忠信
東西の学問が交差した雑誌『郷土研究』 —南方, 柳田, そして周作人—	子安 加余子
『ロキフェールの戦い』における妖精モルガーヌ —「アーサー王物語」の「武勲詩」への影響—	渡邊 浩司
詩作における寛容と非寛容 —友か敵か? 16世紀の場合—	相田 淑子
日本語教育におけるパウロ・フレイレ教育論の趨勢	中川 康弘
自己決定と内発的動機づけ —自由な発想を引き出す自律性支援—	二宮 理佳
国際教育寮における BEVI の活用とその意義	吉田 千春

◆第103号—2022年(2022年9月発行 A5版385頁)

Candyman, the Specter of Past, Present, and Future: The Analysis of Candyman (2021) through Hauntology	Issei WAKE
'Control'-ed Raising: Misanalyses of Infinitival Clause Structures by L2 Learners	Takayuki KIMURA
« L'Océan glacial » : poème-objet ou affiche surréaliste ?	Nozomu MAENOSONO
永楽八年の役と在外衛所 —北直隸の諸衛を中心に—	川越 泰博
災傷と賑恤の間 —明代における災害環境と政策対応—	荷見 守義
『台記』保延二年記の写本系統に関する一考察	白根 靖大
鎌倉御家人天野氏と武蔵国由井郷	西川 広平
建築家ウィトゲンシュタイン	須田 朗
「性の形」を作りだす —村田沙耶香『星が吸う水』—	黒岩 裕市
魔術の女王の『テンペスト』 —松旭斎天一・天勝と〈奇術劇〉の展開—	近藤 弘幸
パウル・ツェラーン「灰色の言葉」へ II	北 彰
オモトオナリの物語	福 寛美